

第6分野 個性を活かし持続可能な地域づくりを推進するまち

基本方針6

住民主体による手づくり自治と 産業の創出を目指します

～アフターコロナ社会とデジタル化に対応したハンドメイドの里「めいほう」～

事業年度	令和5年度
責任部長	明宝振興事務所長
責任課長	明宝振興課長
責 任 課	明宝振興課
主管課・関係課	明宝振興課、観光課、商工課、林務課、企画課、政策推進課、学校教育課

■ 施策の概要

施策1：地域活性化の拠点づくりによる産業・雇用の創出と経済の好循環の確立【主管課：明宝振興事務所 振興課】

明宝地域の幹線道路である国道472号(通称:せせらぎ街道)の通行量は、東海北陸自動車道の全線開通や4車線化の整備促進に伴う影響を受け、ピーク時に比べて大幅に減少しています。そのため、集客力の向上を目的として、第三セクターなど団体間の連携により新しい産業を創出するとともに、明宝の玄関口であり産業の拠点となっている「道の駅明宝」を中心とした観光戦略の再構築が求められています。そうした中、農山村資源を活かした地域ビジネスが生まれており、引き続き農泊事業等を推進し、新しい産業の創出による雇用拡大と、「道の駅明宝」を拠点とした集客力の向上により、地域内経済の好循環を生み出します。

施策2：地域資源の有効活用と社会基盤の変化に対応した地域づくり【主管課：明宝振興事務所 振興課】

明宝地域では、里山保全活動が盛んに行われていますが、今後、少子高齢化に伴い活動の衰退が懸念されます。豊かな里山を守るためには、農山地整備を推進するとともに、資源の有効活用が必要です。そのため、今後は、獣害対策による獣肉等の利活用や、森、河川等の豊かな地域資源を活かした再生可能エネルギーの活用を推進することで、防災や減災に役立てるとともに、得られた収益を活用した自治力強化の取り組みを支援します。また、「めいほうトンネル」の開通に伴う交通網の変化による通行量の増加など、社会基盤の変化に対応した地域の安全確保と地域振興を図ります。

施策3：持続性のある地域活性化を進める地域デザインづくり【主管課：明宝振興事務所 振興課】

明宝地域では、伝統行事の継承や集落環境整備等に住民が主体的に取り組んでいます。少子高齢化による人口減少と、若い世代の進学等による地域離れが過疎化に拍車をかけ、地域活力の衰退が懸念されていることから、今後は、自治力の強化と地域の担い手の確保が必要となります。そのため、人と人をつなぎ、地域課題の解決や地域活性化に向けた取り組みを推進していくほか、未来を担う子どもたちに地域の良さを伝え、郷土愛を深める取り組みを推進します。

■ 基本方針に係る総括評価(所見)

【責任部長：明宝振興事務所長】

新型コロナウイルス感染症による観光面での影響が回復基調にある中、道の駅明宝を拠点とした産業振興の面では順調に事業が進められているが、人口減少・少子高齢化といった地域の最重要課題の克服といった面では、なかなか成果が表れていないのが現状である。

しかしながら、脱炭素社会の実現に向けた取り組みとして、令和5年11月に気良地区において宮原小水力発電所が完成、また令和6年5月には小川地区において日出雲小水力発電所が着工し翌年の完成に向けて工事が進められている。いずれも地域住民が主体となって会社組織を設立し、売電による収益は地域活性化のための取り組みに活用される。また、令和5年度より明宝地域協議会が主体となって生ごみの完熟堆肥化実証実験を実施しており、既存の木質バイオマスボイラー(明宝温泉湯星館・明宝デイサービスセンター)と合わせて、地域資源の循環・活用に向けた取り組みが、将来的に持続可能な地域づくりに果たす役割・可能性に大きな期待が持たれる。

持続可能な地域を目指すためには、市域及び地域での取り組みも必要であるが、自治組織の最小単位である自治会や班、組の活動が地域住民にとっては最も身近であり重要と考える。人口の減少・高齢化が著しい明宝地域では、自治会組織の存続が危ぶまれる中、令和4年度に「自治会に関する市民アンケート調査」を実施し、令和5年度からは明宝地域協議会が主体となってこれからの自治会のあり方についての検討を進めている。

■ 施策ごとの評価

施策1:地域活性化の拠点づくりによる産業・雇用の創出と経済の好循環の確立【主管課:明宝振興事務所 振興課】

評価 B 目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

▶後期基本計画策定時の「現状と課題」	◎後期基本計画策定時の「目指す姿」
・農山村資源を活かした地域ビジネスへの取り組みの不足 ・交通量の減少と新型コロナウイルス感染症の影響による観光客の減少	農山村資源を活かした新たな産業の創出により、人がにぎわう活気にあふれるまち

I. 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など) 【成果】 ・明宝地域協議会では、道の駅明宝の魅力向上を図ることを目的に、三重県多気郡多気町のVISON(ヴィソン)を見学。アフターコロナに向けたインバウンド対策や商品の陳列方法、各種体験メニューなどを視察し、これからの道の駅明宝のデザインや新商品の開発について研修を行った。 ・せせらぎ街道沿いの景観整備に向けた調査事業結果を基に、明宝財産区の「里山環境整備事業」や自治会が主体となって実施する「生活保全林整備事業」を推進し、せせらぎ街道沿いの支障木等の伐採による景観の向上を図った。 ・(株)明宝マスターズが観光協会の業務を受託したことにより、観光パンフレットの作成やホームページの再整備、SNSを活用した情報発信を行った。 ・道の駅明宝では、8月10日の道の日に合わせ「トマトマルシェ」を開催。秋には「新米満喫マルシェ」を開催し、「郡上おいしい米コンテスト」で最優秀賞を受賞された生産者の方のお米の試食や生産者の方の新米の量り売りが行われ、訪れた観光客にも好評であった。明宝のトマトや新米のPRとしてよい機会となった。 【課題】 ・道の駅明宝の将来に向けた構想を具体的にする。 ・今後もせせらぎ街道沿いの景観整備を継続的に推進するため、山林所有者の理解協力を得る必要がある。 ・道の駅明宝が主体となって「トマトマルシェ」「新米満喫マルシェ」など生産者団体等と連携したイベントを企画・開催することにより、明宝産特産物のPRを積極的にを行いながら、観光産業の拠点となるような取り組みを進める必要がある。 II. 今後の方向性と具体的な展開 ・HP、SNSを活用した情報発信と、農泊・民泊の受け入れ体制の強化 ・道の駅明宝の多機能化、コンビニ誘致 ・せせらぎ街道沿いの景観整備と、花桃の里づくりに向けた事業推進体制の構築

施策2:地域資源の有効活用と社会基盤の変化に対応した地域づくり【主管課:明宝振興事務所 振興課】

評価 B 目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

▶後期基本計画策定時の「現状と課題」	◎後期基本計画策定時の「目指す姿」
・里山保全活動の衰退 ・めいほうトンネルの開通 ・再生可能エネルギーの導入	地域資源が有効に活用され、めいほうトンネル開通を契機とした交流による活気あふれるまち

I. 施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など) 【成果】 ・明宝地域協議会では「森林資源の利活用調査」を行い、温室効果ガスの排出量削減や吸収量を国がクレジットとして認証するJ-クレジット制度の活用可能性を調査し、次世代に森林資源を適正な状態で残すとともに、生態系を維持し持続可能な資源として放置や荒廃を招かないよう明宝地域としてJ-クレジットの活用を検討した。林業経営が困難な山林をJ-クレジットの活用により、企業等によるJ-クレジット購入額を森林整備や森林の再生プロジェクトに投資することで、森林の価値向上と持続可能な管理を実現する。 ・めいほうトンネル開通により、小川きの里の入込客増加が見込まれる中、小川きの里の水道の凍結により冬期の営業を縮小していたが、令和5年度に水道配管修繕を行い冬期の営業を行った。令和4年度1月～3月の集客138人に対し、令和5年度1月～3月の集客は352人と増加し、主に関西圏からのスキー客の集客につながった。 ・明宝地域協議会が中心となり、「生ごみ」の堆肥化による環境負荷の低減や、地域資源の調査、地域協議会委員と旅館民宿事業者の協力を得て実証実験を実施。また明宝小学校では、SDGs教育や地域学習の観点から、完熟堆肥づくりを実施。授業では環境問題や学校給食の残渣の調査、資源循環を考え、約800リットルの完熟堆肥を完成させ、学校や地域の畑、花壇で肥料として活用した。 【課題】 ・J-クレジットの活用の実現に向けた取り組みへの支援が必要である ・再生可能エネルギーの普及促進 II. 今後の方向性と具体的な展開 ・「地域循環共生圏の実現」に向けた協議 ・旧小川小学校校舎を活用した地域活性化のビジョン作成と、小川木の里(コテージ)と連動した新たな誘客戦略と受け入れ体制の構築を進める
--

評価

B

目指す姿に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

▶後期基本計画策定時の「現状と課題」	◎後期基本計画策定時の「目指す姿」
・少子高齢化に伴う地域活力の衰退 ・自治力の低下と担い手の不足	担い手確保と人材育成により、地域課題に向けて住民自らが主体となって行動するまち

I.施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)
【成果】 ・一流の落語家を招致する明宝寄席に合わせ、明宝小学校及び明宝中学校で「学校寄席」を開催し、児童生徒が日本の伝統芸能である生の落語に触れ合うことにより、日本の伝統文化のすばらしさを体感することができた。また、児童生徒は様々な制限をコロナ禍で受けてきたが、心の底から笑うことで精神的にも開放感を味わうことができた。 ・明宝では地域資源を活かした再生可能エネルギー事業による持続可能な地域づくりを目指しており、可燃ごみの減量化4Rの推進に取り組んでいる。資源循環の仕組みの構築による循環型社会の実現に向けて将来を担う子供たちへの教育の重要さから、明宝小学校の総合学習(ふるさと教育)において「脱炭素社会の実現に向けた未来構想づくり支援事業」を行った。学習、体験(実験)、未来構想づくりまでの一貫した教育カリキュラムを行うことで地域の姿を知り、今後どのような地域になってほしいか、どんな姿が理想か、それらの理想に向けて何ができるかを考える良い機会になった。 ・平成25年度から明宝中学校2年生と協働による「中学生版奥美濃よもやま話」が令和4年で10周年を迎え、5年前に発刊した第1巻から第5巻までの集約編に続き第6巻から第10巻までの聞き書き集を1冊に集約した保存版が完成した。語り手の方々の生まれ育った明宝のへ思いや、明宝の暮らしや文化を未来に引き継ぎ、ふるさと学習で「聞き書き授業」を行った生徒たちが故郷を愛し、明宝で暮らす、または明宝へ帰ってくるきっかけ作りになっている。 ・ユネスコ無形文化遺産登録により全国の風流踊が注目される中、観光客の増加が見込まれ寒水の掛踊りが従来通り厳粛な中で奉納できるよう「寒水掛踊開催支援事業」を実施した。駐車場の確保や仮設トイレの設置、無料シャトルバスの運行などの支援を行い、初日役500人、2日目約300人の観光客等でにぎわい従来通りの寒水掛踊が実施できた。 【課題】 ・少子化に伴う児童生徒の減少の中、郷土愛を醸成するふるさと教育の実践 ・寒水の掛踊の開催に向けた交通対策、外国人観光客への対応強化
II.今後の方向性と具体的な展開
・人口減少や少子高齢化による担い手不足、労働不足の問題に対し「自治会組織の強化」に向けて地域課題を洗い出し取り組む。 ・明宝地域協議会が今後「地域運営組織」としての役割を担っていくために地域運営組織の理解を深める。 ・10年後を見据えた公共交通や地域医療の在り方、空家対策の検討を行う。 ・寒水の掛踊りへ交通対策等の支援の継続。

■後期基本計画策定後新たに生じた課題等
・電気料金など、光熱水費の高騰による地域経済の悪化 ・寒水の掛踊のユネスコ無形文化遺産登録に伴う観光対策

■関連する個別計画の有無	
無	